

北見工業大学学報

第 225 号 (2008 年 1 月号)

目 次

年 頭 挨拶	「今一度ケネディーの就任演説を思いだそう」……………	2
入 試	平成 20 年度推薦入学試験の実施……………	4
	平成 20 年度大学入試センター試験の実施……………	4
研 究 助 成	平成 19 年度共同研究の受入状況……………	5
	平成 19 年度奨学寄附金受入状況……………	5
人 事	人事異動……………	6
	新任者紹介……………	7
国 際 交 流	韓国チャンウォン大学との共同研究論文が国際会議で優秀論文賞受賞……………	8
	留学生スキー研修を実施……………	9
諸 報	平成 19 年度第 1 回合同企業研究セミナーを開催……………	10
	平成 19 年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を開催……………	11
	AEDを使用した救急救命講習会を開催……………	12
	ウインターサイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施……………	13
	「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」第 2 期事業開始……………	14
	北見工業大学「技術士養成支援講座」の開講……………	16
	フィジカルヘルス講演会を実施……………	17
日 誌	12 月・1 月……………	18

= 年頭挨拶 =

「今一度ケネディーの就任演説を思いだそう」

学 長 常本 秀幸

新年明けましておめでとうございます。穏やかなお正月で、しかも長目のお休みを取られた方も多かったと思いますが、良いお正月だったでしょうか。ただ、今年から学生の冬休みが都会並みに短縮され、1月8日から集中講義が始まりますので、慌しくなったかも知れません。

さて、昨年を振り返りますと国内外、特に北見市は暗い話ばかりがクローズアップされ、井戸端会議の話題に事欠かない1年でした。ただ、本学は建物も明るくなり、また、来年度からの学長に鮎田先生が高い信任率で選ばれるなど、前途に希望を持って新年を迎えることができました。今年は大学ばかりでなく、北見市を含め皆さんにも良い年であることを願っています。

と言いながら、20年度概算要求の結果は、あまり明るくありません。国立大学全体の運営費交付金が1.9%も減額され、1%の約束が破られた事に怒りの声をと、暮れの26日に学長懇談会を開催し、声明を出しております。幸い、大学運営に影響する交付金は2千万円程度の減額で想定内でした。一方、期待していた特別教育研究経費ですが、新規は研究推進経費のバイオリアイナリー関連事業だけで、継続としてメタンハイドレートの連携融合事業、教育改革各1件のみで、昨年度を1千万円程度上回る程度です。一方、施設整備費ですが、耐震改修として電気電子工学科の2号棟と、化学システム工学科棟の2号棟が認められました。新学科構想にあわせて改修できることになり大変喜んでおります。また、バリアフリー対策として新たにエレベーターが2台設置されることになっておりますが、使用に際しては経費節減に協力してください。

昨年12月、経営協議会の折りに本年度の収支決算見込みを報告していますが、平成19年度は人件費の削減、間接経費の増大もあって



剰余金が確保できそうです。しかし、20年度は交付金が2千万円減額される一方で、共通的な経費が増大することから厳しい運営になります。教員には科研費を含む外部資金の獲得にさらに努力いただき、また、事務局には更なる経費の節減をお願いすることになるうかと思えます。これらの予算編成は私の任期中に策定する必要がありますが、次期学長の鮎田先生とも相談しながら進めることにしたいと思っています。

本来ならこの辺でおしまいにしたところですが、私の任期も後3ヶ月、新年の挨拶としてはこれが最後となりますので、少し時間を頂きたいと思えます。

平成16年度の法人化移行時、本学はこれに機会に大胆な改革を進めようと、教員評価制度、全教員対象の任期制などを取り入れました。このような取組みは、法人化の趣旨である自主自律の精神を活用しているとして評価を受けておりますが、一方で、これまでのような余裕感がな

くなったことは確かです。ただ、地方の小さな大学ほど目立つ大学でなければとの思いで取り組んできましたが、まさにこれから真価が問われます。次期鮎田学長のもと、私と同様、いや私以上にご支援をいただき、一歩ずつ前進していただきたいと思っています。

幸い、教育研究施設は他大学が羨ましがれるほど整備されました。次は内的整備です。やはり教育の質の向上が最重要課題となります。色々な機会に本学の教育の問題点を示してきましたが、授業アンケートでの意見、学生生活実態調査の意見、学生との懇談などでも満足度の低い授業が指摘されております。新年度から新カリキュラムになって負担も増大すると思いますが、スタートが重要です。教育改革は個々人の改善から学科単位での改善に移行する必要があります。ぜひ、新学科での教育の学生満足度を高めるための努力をお願いいたします。

教育に頑張ると言いながら、研究成果の発信も手が抜けません。運営費交付金の算定が研究成果を含む法人評価結果によって左右されることが既に決まっています。一方、交付金の

増大は望めないことから、研究費は自分で確保する時代が到来しつつあります。そのためには研究発信力を高めることです。この場合も個人の対応では限界がありますのでプロジェクトを組む、他大学と連携するなどの積極的な活動が研究力を高める鍵になります。この事を推進するため研究推進センター制度を構築しましたが、まだ十分な活動になっていませんので、この見直しも必要です。

このように、大学を取り巻く環境はますます厳しくなります。これを乗り越えるには教職員が一丸となって取り組めるかどうかにかかっていると思います。最後になりますが、私の就任時に引用したケネディー大統領の演説をもう一度思い出してください。ケネディー大統領は国民に次のように訴えました。「国家が我々のために何をしてくれるかではなく、我々が国家のために何が出来るかを問おうではなか」と、国家を大学と置き換え、このことを念頭に、本学の発展に皆さんが努力されん事を願い新年の挨拶といたします。

= 入試 =

平成 20 年度推薦入学試験の実施

(入 試 課)

平成 20 年度推薦入学試験は、小論文及び面接試験が 12 月 7 日(金)に実施され、12 月 19 日(水)に合格発表が行われました。

各系列別の合格者等については下表のとおりです。

系・学科名		募集人員	志 願 者	合 格 者
機 械 ・ 社 会 環 境 系	機 械 工 学 科	40	56	49
	社 会 環 境 工 学 科			
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	電 気 電 子 工 学 科	35	52	39
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科			
バ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	バ イ オ 環 境 化 学 科	28	34	34
	マ テ リ ア ル 工 学 科			
計		103	142	122

平成 20 年度大学入試センター試験の実施

(入 試 課)

平成 20 年度大学入試センター試験が、1 月 19 日(土)、20 日(日)の両日実施されました。本学会場の志願者は昨年度より 52 人増の 748 人となりました。

= 研究助成 =

平成19年度共同研究の受入状況

平成20年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
機械システム工学科	准教授	鈴木 聡一郎	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	隆祥産業(株)
土木開発工学科	教授	高橋 修平	自然環境を生かした雪氷の利活用	北海道陸別町しばれ技術開発研究所
機能材料工学科	教授	高橋 信夫	オホーツク圏における廃食油からのバイオディーゼル燃料生産のための触媒特性評価に関する基礎研究	(財)オホーツク地域振興機構
機械システム工学科	教授	佐々木 正史	温泉廃熱利用に係る基礎調査研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
地域共同研究センター	教授	鞘師 守	携帯端末を用いた付帯情報管理システムの開発	北見情報技術(株)
機械システム工学科	教授	羽二生 博之	3Dレーザスキャニングシステムの地形測量分野への応用に関する研究	(株)タナカコンサルタント

平成19年度累計 93件

平成19年度奨学寄附金受入状況

平成20年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 円
機能材料工学科	准教授	伊藤 英信	工学研究のため	日本天然素材(株)	600,000
化学システム工学科	准教授	中谷 久之	化学システム工学に対する寄附	カルブ工業(株) 複合材料研究所	500,000
情報処理センター	講師	寄高 秀洋	工学研究および職務遂行のため	寄高 秀洋	75,000
土木開発工学科	教授	大島 俊之	構造物の耐震補強設計に関する研究	(株)開発工営社	1,000,000

平成19年度累計 61件

= 人事 =

人 事 異 動

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
19.11.30	施設課施設企画係長	長縄 保則	辞職 (旭川工業高等専門学校へ転出)
19.12. 1	施設課副課長	小林 正巳	施設課副課長(施設企画係長兼務)
19.12.31	事務局長	山田 泰二	辞職
20. 1. 1	群馬大学総務部長	石川 護	事務局長
20. 1.15	(新規採用)	後藤 将大	施設課施設企画係

新 任 者 紹 介

(総 務 課)

○事務局長に ^{いしかわ}石川 ^{まもる}護 氏

昭和27. 7. 16生

- 47. 4 東京商船大学教務課
- 50. 11 庶務課
- 52. 5 文部省大臣官房情報処理課
- 54. 8 企画室
- 59. 7 政策課総務係主任
- 59. 8 (兼) 臨時教育審議官事務局総務課
- 61. 4 政策課調査係長
- 平成 1. 4 総務係長
- 4. 4 宇都宮大学庶務部人事課長
- 5. 12 筑波大学総務部人事課長
- 8. 4 国文学研究資料館管理部庶務課長
- 9. 4 文部省大臣官房政策課情報処理室室長補佐 (兼) 情報化推進専門官
- 13. 1 情報化推進室室長補佐 (兼) 情報化推進専門官
- 13. 4 静岡大学附属図書館事務部長
- 14. 10 富山医科薬科大学総務部長
- 17. 10 群馬大学総務部長
- 20. 1 北見工業大学事務局長

○施設課事務職員に ^{ごとう}後藤 ^{まさひろ}将大 氏

昭58. 7. 14生

- 平18. 3 岩手大学人文社会科学部法学・経済課程卒業
- 19. 6 北海道地区国立大学法人等職員採用試験合格
- 20. 1 北見工業大学施設課

= 国際交流 =

韓国チャンウォン大学との共同研究論文が国際会議で優秀論文賞受賞

(電気電子工学科)

本学と国際交流協定を締結している韓国チャンウォン大学工学部電気電子工学科パク研究室に研究教授として在籍しているモハメド・ハサン・アリ氏の論文が、去る10月8～11日、韓国ソウル市で開催された ICEMS2007 (International Conference on Electrical Machines and Systems 2007、2007年電気機械システムに関する国際会議)において優秀論文賞を受賞しました。

論文タイトルは「Improvement of Wind Generator Stability by Fuzzy Logic-Controlled SMES (ファジィ制御された超電導エネルギー貯蔵装置による風力発電機の安定度改善)」です。

本国際会議は、日本、韓国、中国、米国の電気学会が共催する電気機械システム分野に関する国際会議です。

アリ氏は本学大学院博士課程を修了後、日本学術振興会外国人特別研究員として本学電気電子工学科田村教授の研究室に在籍し、今年の2月からチャンウォン大学パク研究室に移籍して、田村研究室との共同研究を進めておりました。田村研究室からは、今年8～9月にマスター2年の学生が約40日間パク研究室



優秀論文賞の賞状

に留学する等、本学との国際交流協定締結以後着実に成果が上がってきており、今後の進展が期待されるところです。

留学生スキー研修を実施

(研究協力課)

1月11日(金)、留学生対象のスキー研修を端野メビウススキー場で実施しました。

当日は晴天に恵まれ、留学生およびチューターの日本人学生合わせて30数名の参加者は、すがすがしい空気の中、新春の初滑りを楽しみました。

研修は現地インストラクターの指導の下、初心者と経験者の二組に分かれて行われました。

スキーで歩くこともままならなかった初心者も、午前の研修の終わりにはリフトに乗せられ、時に悲鳴を上げ、雪まみれになりながらも何とか無事に下山。一日の研修が終わる頃にはスキーのコントロールもかなり上達し、各自思い思いのペースで滑降を繰り返していました。



インストラクターの指導を受ける留学生



おっかなびっくり・・・

= 諸報 =

平成 19 年度 第 1 回合同企業研究セミナーを開催

(学生支援課)

12 月 1 日(土)・2 日(日)の両日、本学を会場として「第 1 回合同企業研究セミナー」が開催されました。

今回のセミナーには両日併せて、道内外から企業 42 社と就職希望学生約 280 名の参加があり、リクルートスーツに身を包んだ学生は、熱心に各企業担当者から業界・業種及び採用等に関する説明を受けていました。

また、お昼には今回初の試みとなる立食形式の情報交換会及び名刺交換会が実施され、学長をはじめ就職担当の先生も参加、学生・企業・教員三者による交流の場となりました。

ました。

この交換会では、最初は遠慮がちだった学生も次第に会場の雰囲気慣れ、企業担当者に積極的に質問する場面も見られました。

セミナーは大変有意義なものとなったようで、学生からは「普段なかなか聞くことのできない業界の話が聞けた」「直接企業の方とお話できて良かった」「就職活動の参考になった」等の意見が寄せられました。



企業の説明を熱心に聞く学生



初の試みとなった情報交換会

平成 19 年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

12月12日(水)、総合研究棟2階多目的講義室において、平成19年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を開催しました。

この研修は、保有個人情報の取扱いに従事する職員及び情報システムの管理に関する事務に従事する職員等に対し、保有個人情報に係る適切な管理・取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることを目的として、昨年度に引き続き開催したものです。

対象者は、本学全教職員の他、今年度は新たに網走管内の大学及び高等学校、北見市内の小中学校へ文書による案内を行った結果、計40名の出席者がありました。

学長の挨拶、大島理事の講師紹介と続き今回の講師である東京海上日動火災保険(株)札幌中央支店金融公務課長 山内 貴史氏による講演「学校における個人情報保護の実例と課題」が、1時間程行われました。

最後に講師との質疑応答を行い、研修者の理解も更に深まったと思われます。



講演する講師の山内貴史氏

AEDを使用した救急救命講習会を開催

(施設課)

12月25日(火)北見地区消防組合から講師を招き、教職員を対象としたAEDを使用した救急救命講習会が開催されました。

AED(自動体外式除細動器)とは、突然の心停止から命を救うための装置で、2004年の法改正により一般市民でも使用できるようになり、現在では公共施設等に数多く設置されています。(本学には3台設置)

当日は35名の教職員が参加し、講義を受けた後、一号館アトリウムで実技を行いました。はじめに人工呼吸練習用人形を使い人工呼吸と心臓マッサージによる心肺蘇生法を行い、つづいてAEDを使用した肺蘇生法の指導を行いました。

はじめはぎこちない感じの受講者たちでしたが、2回目になると手際よく措置を行えるようになりました。

参加者からは、「受講するのは初めて。心臓マッサージの方法や気道確保などは知らなかった。受講して本当に良かった」などの感想が寄せられました。

最後に、講師から受講者一人一人に普通救命講習Ⅰの修了証が手渡され、講習会を終了しました。

本学では今後も講習会を開催する予定です。救急救命の知識は命を救うために必要な知識です。受講されていない方は一度受講されることをお奨めいたします。



AEDを使った蘇生法を学ぶ教職員

ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界を体験しよう」を実施

(学生支援課)

12月25日(火)から27日(木)までの2泊3日の日程で、独立行政法人科学技術振興機構主催のウインター・サイエンスキャンプを実施しました。

今回で4回目の実施となるこの事業には、全国各地から多数の高校生の応募があり、急遽16名の定員を20名に増員し、「雪と氷の世界を体験しよう～雪結晶から地球環境まで～」をテーマに本学の屈斜路研修所を主会場として実施しました。プログラムでは、寒冷地における光学現象の講義や赤外カメラを使用して摩周湖や硫黄山を観測したり、仁伏温泉ポンポン山にかんじきをはいて登山するなど、寒冷地ならではの実験や実習を体験

しました。更に、本学講師の南極体験記の講義もあり、盛り沢山の3日間となりました。

今回は、積雪量が少なく残念ではありましたが、常本学長からクリスマスケーキの差し入れがあるなど思いがけないプレゼントに皆大喜びでした。

キャンプ中は、高校生たちと講師との積極的な交流が行われ、厳しい冬の北海道と自然の美しさを科学的に体験することができました。

クリスマスケーキに大喜び→



かんじきをはいてポンポン山を探索する高校生たち

「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」第2期事業開始

(研究協力課)

平成 18 年度文部科学省科学技術振興調整費として採択を受けた標記事業の平成 19 年度第2期生の開講式・オープニングセミナー・交流会を平成 20 年1月 10 日に実施しました。(講義開始は 15 日より)

当プランは公共事業削減により業種転換を迫られている建設関係業界及び後継者不足に悩む農林水産業への支援を目的とし、オホーツクブランドの確立と、地域の特色である第一次産業の工業化(大規模化・精密化・差別化)を目指し、生産・管理・保存・製品化・マーケット開拓等の一貫した行程を学び、最終的にはこれら工学・農学双方の技術・知識を身につけた人材による起業化・事業化・後継者育成を図ろうというものです。事業の内容は1年目の座学から始まり、次年度の実習を経て2年計画での人材育成事業で、第1期生 13 名に続く第2期生として 10 名が決定しました(最終的には 40 名の修了者を予定)。開講式では、高橋修平教授(地域共同研究センター長)の挨拶に引き続き、同教授と山岸喬教授によるオリエンテーションが行われました。オープニングセミナーでは、独立行政法人科学技術振興機構(JST)の宮岸 明:科学技術振興調整費業務室主任調査員による「地域再生人材創出拠点の形成について」の説明が行われ、本学の提案は全国のモデルケースとなっており、文科省はその成果に注目している、との言葉をいただきました。引き続きJSTの小林博和:科学技術振興調整費プログラム主管より「地域再生人材創出拠点の形成プログラムによる日本各地での取り組み」について説明があり、日本各地での当該事業内容が紹介され、「各事業の内容が全く異なり、地域の特性が現れており、今後は各事業間の連携・情報交換によ



高橋修平地域共同研究センター長挨拶



JST宮岸 明主任調査員講演



JST小林博和プログラム主管講演

る更なる発展を期待している」とのエールが送られました。最後に当該プログラムの講師を依頼している、北見在住の川本雅秀:川本デザイン室 Creative Director より「生産の場から流通を経て生活の場へと結ぶパッケージの役目とデザイン」の題目による講演が行われ、パッケージの役目について現場での苦労とその重

要性に係る講演がありました。

セミナー終了後、交流会の開催となり、和やかな雰囲気の中、事業の成功に向けた歓談が行われました。中でも、会場に設置された第1期生の成果である高機能性食品(お茶、パン他)の試食コーナーは特に好評を博していました。



講演会風景

北見工業大学「技術士養成支援講座」の開講

(研究協力課)

札幌市近郊に在住する本学の土木開発工学科卒業生を主な対象として、昨年度に引き続き「技術士養成支援講座」を、本学出身技術士の全面的な協力を得て、札幌サテライトにおいて開講することとなりました。

本講座は、札幌在住の本学出身技術士6名及び北見在住の2名が講師となり、実践的な講義内容を親切・丁寧に指導し、「技術士」の資格取得を支援するものです。

開講期間は、1月から7月までの第1月曜日・第2金曜日の合計13回とし、開講時間についても、勤務後に参加しやすいように18時から2時間で実施する旨募集したところ、18名の応募がありました。

第1回目の1月25日は、受講者14名が出席し、開講式を実施しました。大島理事から各講師の方々へ「客員教授」の称号授与の後、開講にあたっての挨拶並びに講座の

趣旨説明がありました。引き続き、各講師からは受験に際しての留意事項及び各受講者からは資格取得に向けた決意表明を含めた自己紹介が行われ、昨年度の受講者で口頭試問まで受験した2名の先輩からの体験談が披露されました。その後休憩をはさみ、林 克恭技術士による「技術士試験のガイダンス」を実施しました。



大島理事からの挨拶



大島理事を囲み講師及び受講者一同

フィジカルヘルス講演会を実施

(学生支援課)

1月30日(水)に教職員・学生を対象としたフィジカルヘルス講演会が実施されました。この講演会は、健康にまつわる様々なテーマについての各分野の専門家による講演を通じ、学生・教職員が健康管理の重要性を自覚し、健康維持・増進を図るきっかけを作ることを目的として保健管理センターが初めて企画したもので、市内の古屋病院院長 古屋聖児氏を講師に招き、性感染症をテーマに講演が行われました。

講演では、講師から、性感染症の中でも若年層を中心に自覚症状のないままに感染の広がりを見せているクラミジア(非淋菌性尿道炎)を中心に、性感染症全般について最新の医学的知見や、豊富な臨床経験を踏まえながら、詳細に解説されました。

性感染症の感染拡大防止の第一歩は、まず、何よりも一人ひとりが正確な知識を身に付け、身近な病気であることを自覚することであり、学生にとって、今回の講演は、普段、じっくり学ぶことのできない性感染症の予防知識を得ることができる貴重な機会となったようでした。

本学では、今後も幅広いテーマを取り上げ、定期的にフィジカルヘルス講演会を企画していく予定です。



講演する古屋氏



講演会の様子

12 月

- 1 日 合同企業研究セミナー(～2日)
- 3 日 地域共同研究センター産学官連携推進員
会議
推薦入学者選抜実施委員会
- 5 日 教育研究評議会
- 7 日 推薦入学試験
- 8 日 リーダーシップトレーニングセミナー(～9日)
- 11 日 発明審査委員会
- 12 日 企画運営会議
推薦入学者選抜実施委員会
- 13 日 教務委員会
- 14 日 学長選考会議
教育研究評議会、経営協議会、役員会
後輩への就職アドバイス
- 17 日 企画運営会議
- 18 日 地域連携推進委員会
入学試験実施委員会
入学者選抜委員会
- 19 日 教授会、研究科委員会
推薦入学合格発表
大学院FD研修会
- 21 日 図書館委員会
就職ガイダンス

1 月

- 8 日 企画運営会議
- 9 日 教育研究評議会
- 11 日 教務委員会
- 16 日 企画運営会議、研究科委員会
- 19 日 大学入試センター試験(～20日)
- 25 日 就職ガイダンス
- 29 日 学生委員会
- 30 日 フィジカルヘルス講演会

